

平成23年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校3年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	話の内容を文脈に沿って正しく聞き取る力は、概ね身についている。	日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、分かりやすい話し方や話の要点の聞き取り方について、継続して指導する。
説明的文章	「文脈に即した内容の理解」は概ねできているが、「接続語の補充」や「段落の要旨」を読み取る力は不十分である。	各段落の要点を読み取っていくとともに、接続詞の役割を考えた段落と段落の関係や段落の役割について考えさせる指導に力を入れていきたい。
文学的文章	「語句の補充」「語句の意味」は概ね身についているが、「文脈に即した内容の理解」は正答率が低かった。	文脈に沿って、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取っていく指導を続ける。
漢字	読みに関しては概ね身についている。「書き」は「教わる」の正答率が低かった。	新出漢字を学習する場合には、書き順や読み方だけでなく、漢字の成り立ちや意味、部首についても指導し、習得を図る。また、日常の表現指導（ノート、作文、日記、手紙）においても漢字を使う指導の徹底を図る。
言語事項	慣用句「ねこのひたい」の正答率が低かった。「常体と敬体」「国語辞典の引き方」は市の平均を上回った。	地域学校園での辞書活用の取り組みが成果となって表れた。難解な語句や慣用句などについては、小まめに取り上げて、語彙を豊かにしたり言葉に対する感覚を鋭くさせたりしていきたい。
作文	招待する手紙に大切なことを盛り込んで書くことが良くできている。市の平均を上回った。	具体的な場面に即して、招待状を書く経験を積み重ねさせていきたい。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	全体的には概ね理解しているが、「大きな数」や「分数の意味と表し方」の正答率が低かった。	学習してから時間がたつと忘れてしまいがちな内容であるので、折に触れて指導を繰り返したい。
量と測定	全体的には概ね理解しているが、「重さ」や「時間と時刻」については理解がやや不十分であった。	日常生活で使われている重さや時間を意識させながら、繰り返し指導をしていく。グラフについても、問題演習に取り組ませたい。
数量関係	「棒グラフのかき方」「□を使った式」「割り算の文章問題」の正答率が低かった。各問とも、前半の基本的な問いの正答率が高いが、次の少し深く問われたもので正答率が大きく下がる傾向がある。	棒グラフでは、読み取るにしても描くにしても、ひと目盛りがいくつになるかが大切であることを、折に触れ指導していく。「□を使った式」「割り算の文章問題」は、解法の約束を思い起こさせたい。